

# 進めよう災害に強いまちづくり 南国市住宅防災計画 ②

現在行われている防災計画にもとづいた事業の一部を紹介します。

## 耐震改修技術者育成事業



研修を受ける「なんこく住宅改修隊」の1班メンバー

住宅の耐震改修には、木造住宅の構造や施行に関する専門的な知識・技術、経験が必要です。

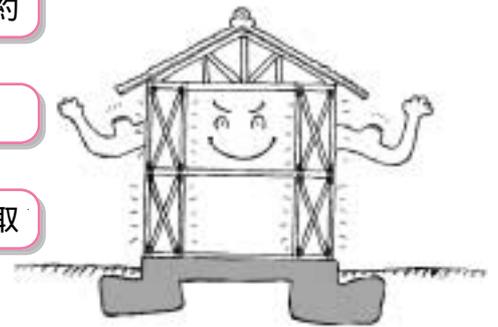
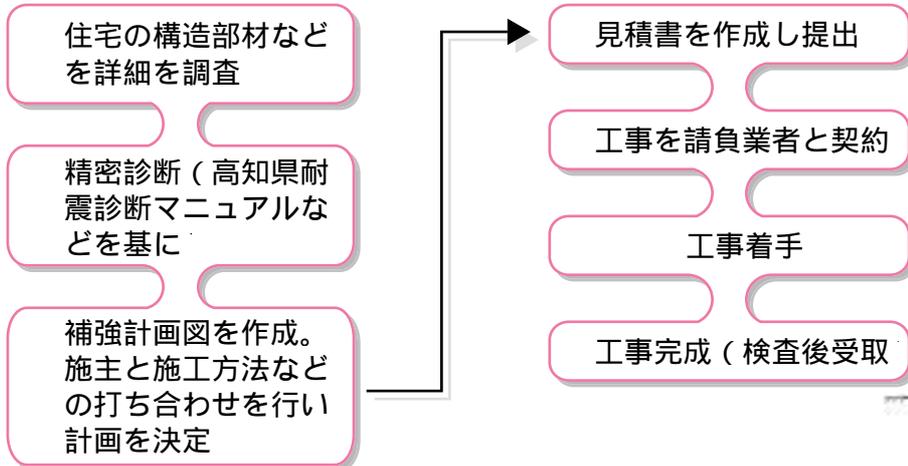
耐震改修技術者育成事業では、建築構造設計の専門家を講師に迎え、大工・工務店の技術者が、現地調査や精密診断・補強計画の作成などいつもの仕事とは少し異なる研修に真剣に取り組んでいます。

市では、市民の皆さんが信頼・安心できる耐震専門技術者の育成に努め、研修終了時には技術者の名簿を公開し、耐震改修などに役立ててもらおう予定です。

### 耐震補強・改修工事はどのように進められるの？



住宅の所有者と改修工事の打ち合わせをし、下記のような工程で進められます。



## 住宅防災・まちづくり 自主防災組織育成事業

西立石防災会の研修



左右山防災会の研修



新川防災会の研修



左右山（国府地区）、新川（大篠地区）、西立石（稲生地区）の各防災会で始まった自主防災組織育成事業。第2回の懇談会が各地区で開かれました。

左右山防災会では、防災に関する短期・中期的な課題が出され、毎年の防災活動で取り組んでいくことを確認、新川防災会では、公民館周りの清掃と防災機材などの確認をし、参加者は防災対策チェックリストで我が家の防災の取り組みを点検していました。

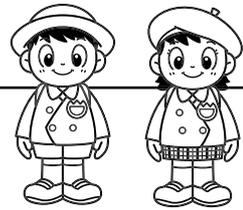
また、西立石防災会では、前日に事前勉強会が行われ、当日も高齢者を含め多くの参加者が、防災についての意識を高めていました。

お問い合わせは、住宅課建築係 880・6558まで

# 市立たちばな幼稚園

平成17年度

## 入園の募集



募集対象・人数 / 南国市居住の次の幼児の皆さん

3歳児...35名

(平成13年4月2日～14年4月1日生まれ)

4歳児

(平成17年4月以降空きがある場合のみ募集)

5歳児

(平成17年4月以降空きがある場合のみ募集)

\* 募集人数を超えた場合は抽選します。

申込先・お問い合わせは、たちばな幼稚園  
または学校教育課

申込期日 / 11月17日 ~

平成17年1月14日

\* 入園願書は、11月1日より、たちばな幼稚園、学校教育課で配布します。

抽選日 / 平成17年1月24日

\* 南国市役所で行います。

面談日 / 平成17年1月25日 14:00~

\* たちばな幼稚園(宍崎)で行います。

開園時間

〔月・火・木・金曜日〕 8:00~15:00

〔水曜日〕 8:00~13:00

授業料 / 園児1人につき、月額6,000円

給食費 / 完全給食(一食 220円)

862-1212

880-6568 まで

## 人権く共生の時代

③⑥

## 人権教育シリーズ

人権に関する学習がなされ、人権について「知る」ことも多くなってきました。けれども、知ったことを活かさなければ何にもなりません。次のような言葉があります。

聞いたことは、忘れる」「見たことは、覚える」「することで、わかる」「見いだしたことは、それを活かすことができる」

この最後の言葉にあるように、自分から行動を起こすなかで、見いだしたことが、生きて働く力になるということでしょう。

「知る」と「行動」の間をたなぐものは、「一人ぼつちの学習」ではなく、「コミュニケーション(対話)」「や」「協同」などの「関わりのある学習」から生まれてくるのではないのでしょうか。こうしたことからは、いろんな人がそれぞれの個性を生かして共に生きる「共生」ということの大切さが近年言われてきました。

障害児教育の施設を開設し、家族共ども障害を有する子どもたちと生活を共にしてきた、福井達雨さんという方が次のように述べています。

「先日、町を歩いていたら、目の不自由な方が、ウロウロ道でされていました。長男が一緒にいたので、あの人、目が見えなくてかわいそ

「『ために』から『共に』へ」

お問い合わせは、人権広報委員会 880-6569 まで

うだから、助けてこい」と言うところから、お父ちゃん、どうしてあの人かわいそうや」と長男が聞きました。

「そら、目が見えへんから、何にも分からへんから、かわいそうやないか」と私が言うのと、「どうしてやねん、お父ちゃん。あの人な、道がわからんで困ってはるだけやで。何にも、かわいそうなことあらへんで」と言うんです。私は、長男の言葉を聞いて、愕然としました。私は、障害児差別の難しい理論を頭の中にもち、25年も障害児差別撤廃の闘いを現場で押し進めてきた人間です。

長男、次男は、あの子どもたちと一緒に生活する中で、正しい障害児観、人間観を身につけてきました。しかし私は、今もこの子どもたちを差別する世界から抜け出すことができないでいるのです。今、その私に對して、とつても激しい怒りをもっています。私は、「ために」という教育は受けましたが、「ともに」という教育は、小さい時から受けてこなかったのです。その私は、今もこの子どもたちを差別する世界から抜け出せないでいます。」

『共に』という生き方の中で、何かを発見し、それを活かせる人権尊重の社会づくりを目指したいですね。